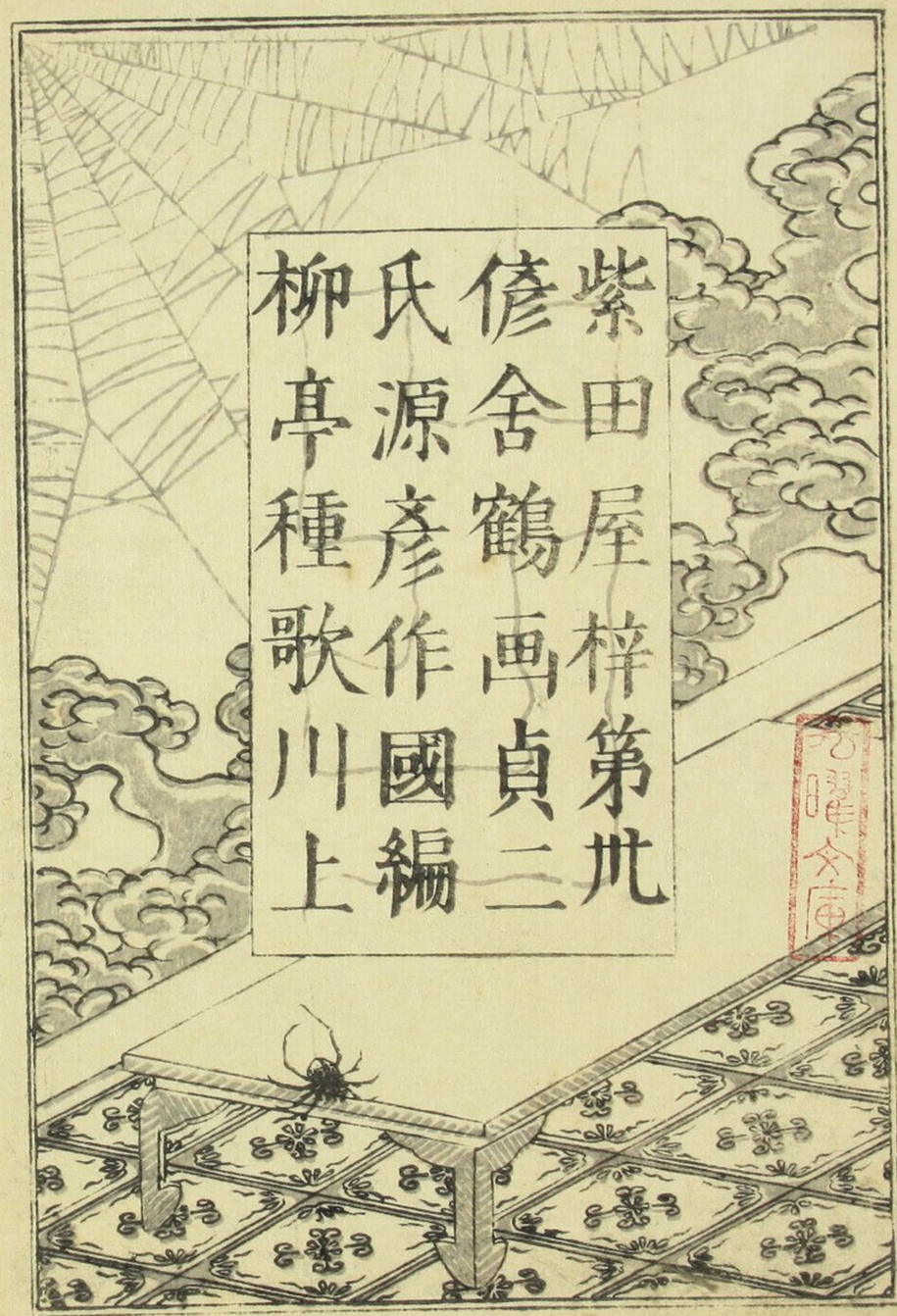
三十二編上



紫田屋梓第卅
偐舍鶴画貞二
氏源彦作國編
柳亭種歌川上

明治文庫

偐紫田舍源氏第三十二編

羽二重の衿の最上あれども兩袂ふるさとらんあい兜羅綿ふるさ光ま
編緬の前垂もあを掛ふあもりろく本綿程用いろ手ほ野良
帽子の紫の羊羹ふるさ今ふ度らも赤裳ひきと絲をうれば
万葉時代も長襦袢ハ緋ゐし事必せりこまべ色も地のひも
ありふれるふ及事あ〜とハ知りゐ〜足利指で五ゐ衣を仕立
かく〜不案じもとくして十二重の十二年續きそて女の巻ふ
至り五節の舞の衣裳ふこまり大原ふの田舍摸様極ゆ雪
初音の巻の男踏歌と後ふの九せ五葛の兎ふ綿をふ〜こそ
見られども原本雅言の借物あれば横堅ゐも採ゐを〜ゐ
書房ハ是をさハまらぬふせんと急ぐもとう〜

天保十年庚子孟春　柳亭種彦誌

大原野の祭
仁壽元年
辛未二月一日
乙卯の日
▲ちぐめて
▲ちりあとあれ最ふるき神事
藤氏の后宮へ行啓あり

東都 禾木園家丘扶輯

俳諧 今人附合集 全四冊

新開板

天保元年の頃 元禄上方の西鶴翁の俳諧を師とし其の門人の附合五百吉を撰び歳時の部より一騎当千の作を集む

俳諧 今人発句集 全二冊

新彫板

天保改元迄の所謂この西鶴翁の門人の発句七千餘篇を四季に分ち歳時の部より一騎当千の作を撰び利の事を

俳諧芳帙集 全二冊

田舎源氏文筆はかること 上 仕立 たをこう入 小絵ぞうし 昔ばなし 林太郎ア 全二冊 昔 さるちゃんこく 全三冊 菜畑のろは 全三冊 昔 浦島爺 全三冊

俳諧 今四歌仙 全一冊

種彦吟書 貞秀画図

所々遊覧入

江戸御暦開板所

鶴屋喜右衛門

三十二編下

柳亭種彦作

田舎源氏

第三十二編下冊

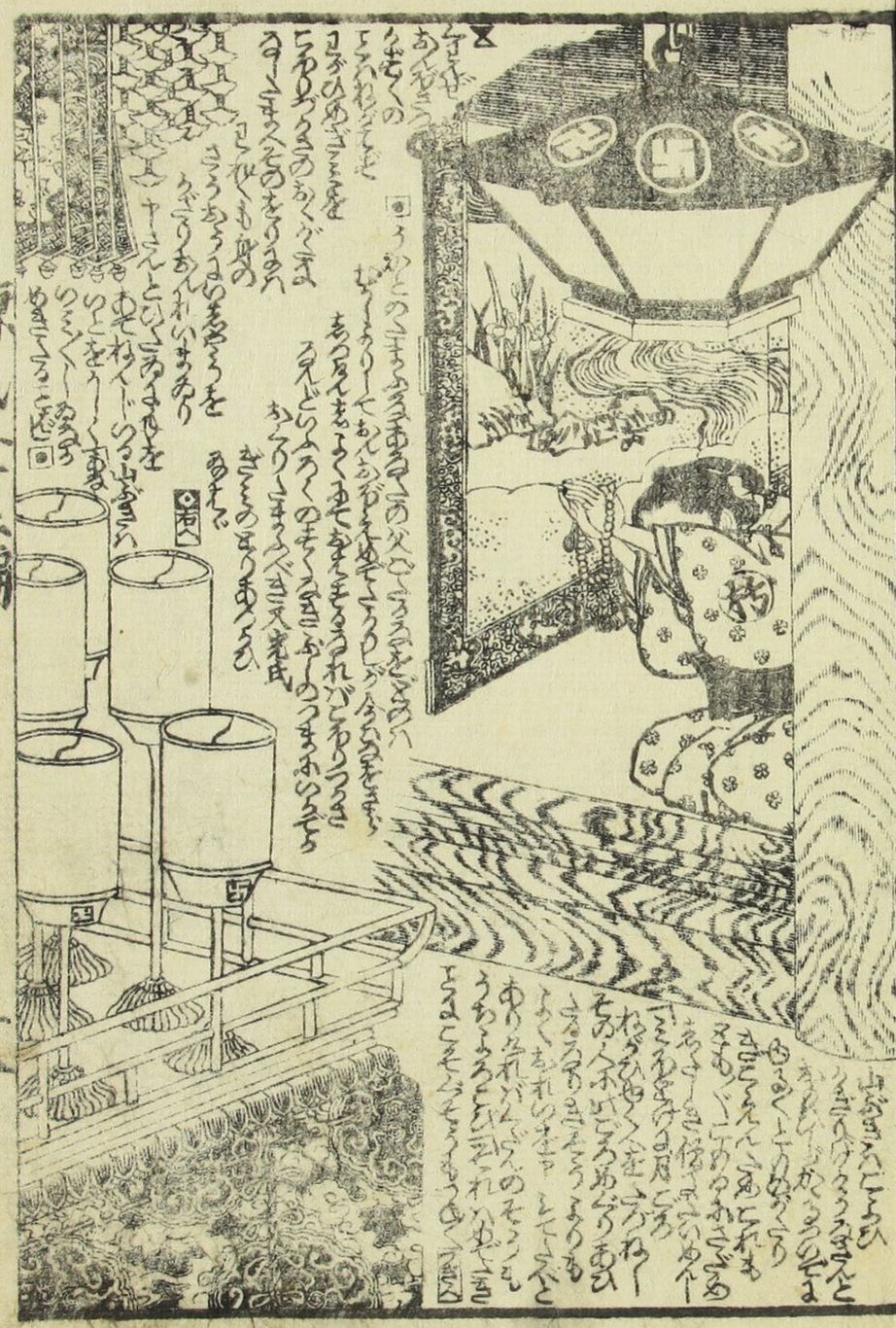
歌川國貞画

通油町

仙鶴堂板

東京帝国大学図書

抱玉筆



柳亭種彦作
歌川國貞画

天保十一庚子初春新彫

偐紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

当年三十二編より三十五編まで用板おろし古多作紙奉希ひ

百人一首稚講釋

山東京山作
全八冊
歌川國虎画

楠一代記

烏有山人作
全五冊
歌川國芳画

鴛鴦物語

山東京山作
全四冊
歌川國貞画

森羅万象心意氣

五柳亭徳升作
後編全四冊
歌川國芳画

國字水滸傳

笠亭仙果譯
第十七編
歌川國芳画

藻塩草須磨書替

松下楼麓谷作
全四冊
五雲亭貞秀画

広乃の素かしらの
美艶仙女香
黒油美玄香
四十八銅
南佐久町
三丁目西側
坂本氏製

書物 錦繪
團扇 地紙
問屋
江戸通油町
鶴屋喜右衛門

とりのみ